

帯広空港脱炭素化推進計画の概要

1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・帯広空港は、北海道帯広市に立地し、空港周辺は平地となっている。空港用地は平地に造成されており、空港用地やその周辺に広い法面を有していない。
- ・2,500m滑走路1本と旅客ターミナルビル1棟等を有し、乗降客数55万人、航空貨物2,815ト、離着陸回数4,978回（2022年度）を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明、灯火のLED化及び建物の省エネルギー化のほか、太陽光発電設備や蓄電池設備といった再生可能エネルギーの導入及び空港車両のEV化・FCV化に取り組む。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量【t/年】	
	2013年度	2019年度
空港施設	2,555トン	2,351トン
空港車両	99トン	122トン
計	2,654トン	2,472トン
参考:航空機	1,7171トン	1,697トン
参考:空港アクセス	4,234トン	4,503トン

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度	2013年度比 48%削減
2050年度	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度：旅客ターミナルビル等の照明LED化や空調設備の高効率化による省エネ化とBEMSを活用、航空灯火のLED化、太陽光発電による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充・蓄電池の導入、空港車両のEV化・FCV化・バイオ燃料利用の検討



5. その他の取組

◆地域連携・レジリエンス

自然災害等による系統停電発生時に太陽光発電設備、蓄電池設備、水素燃料電池設備及び非常用発電設備を組み合わせ運用し、空港施設への電力供給時間の延長を図る。

また、災害時の地域連携として、空港駐車場に充電器及び水素ステーションを整備し、周辺住民や周辺自治体とのエネルギー共有を検討する。

◆意識醸成・啓発活動等

環境負荷削減に関する取組として、各事業者にて事務所内の節電、空港内の徒歩や自転車移動の促進、ペーパーレス化の促進を実施している。

また、現状の取組を引続き実施するとともに、各事業者が連携して紙廃棄物のリサイクルを推進するなど、更なる環境負荷削減を図るほか、各種掲示物等による空港利用者への空港脱炭素化の理解促進や認知向上を行う。